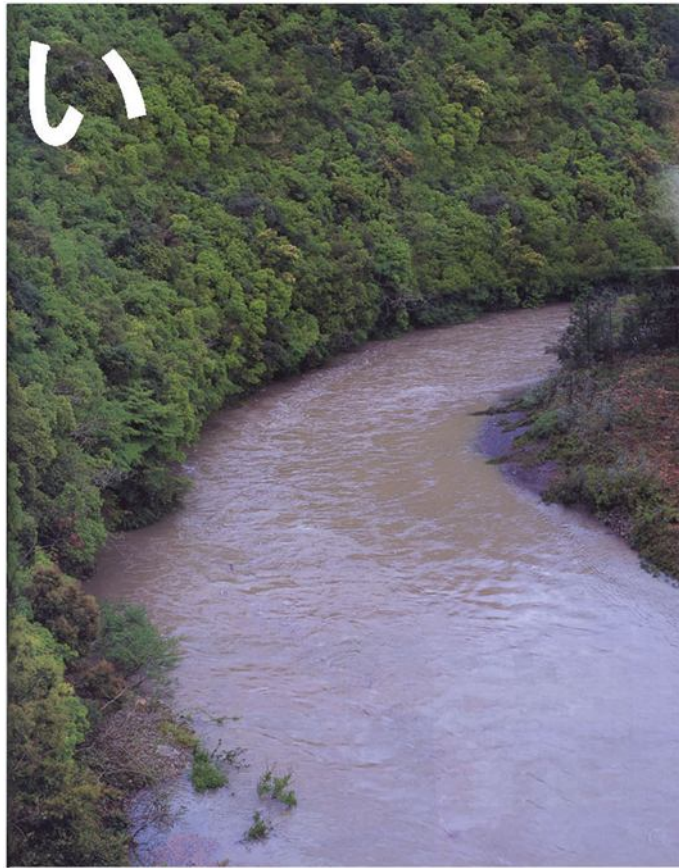


「教科書の川の写真から学ぶ(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

紀伊半島の南部を流れる川には、二つの特徴がある。一つは急流であること。もう一つは、降水量の多い地域に流れていることである。教科書の導入に出てくる、古座川もその一つである。教科書の2枚目の写真は、増水時のものである。これも、良い写真を選んだものと、感心した。



「激しい濁流」とまではいかないが、増水でにごった水が、川幅いっぱいになっている。右側にあった、三日月型の河原も、ほぼ完全に水没している。



教科書の写真には、「なぜ水がにごっているのか」という、学習問題が提起されている。しかし、子どもたちは、水がにごっていることにはほとんど興味を示さず、全く別の疑問が持ち上がってきた。

- ①右側にあった森がなくなっている。これも川が増水したから、流されたのか?
- ②そもそも、この写真の川は、上が上流なのか、下が上流なのか?

①については、教科書会社の編集会議でも、きっと話題になったはずである。しかしこの疑問は、教科書の写真をよく見ると、あっさりと解決する。



「い」の写真の右側の岸(この時点では右岸なのか左岸なのか不明)をよく見ると、切り株がたくさん見える。これは、「あ」と「い」の写真の間に、人工的に伐採されたことを示す。また、「あ」と「い」の写真には、時間的に相当な間隔があったこともわかる。ここまでは、多くの子どもが、簡単に推理できた。

問題は二つ目の、「川が流れている方向」である。教科書には、その説明はない。「写真の上が上流というのは当たり前」だから載せなかったのか、流れる方向を考えさせたくて載せなかったのかは不明だ。しかしこの疑問が、思わぬ論議に発展してゆく。(つづく)